

ステラ・マリス氏 スピーチ

皆さま、こんばんは。

こんにち、青年たちは、平和の重要な声となり、ミレニアム開発目標と「支え合う安全保障」を実現する理由を与えてくれています。彼らは、各国政府が兵器の購入のために子供の教育を否定したり、地雷や兵器の被害者とならないように、この1年間、各宗教の良さを活かして140カ国で活動に取り組んできました。

「ARMS DOWN! キャンペーン」とは、軍縮と開発のために青年と宗教を合わせたユニークなコンビネーションであり、地域のリーダー、各国政府や様々な業界の人を、軍縮を通して開発を目指す活動において活気付けてきました。

では、何を達成できたのか？ 世界中において1万人のアクティブ・ユース・リーダーが10万以上の他宗教トレーニングやキャンペーン活動から生まれました。2000万人に対し軍縮の必要性について、特にMDGsを達成するために軍事費を10%削減することについて教えました。このメッセージをコスタリカ大統領、日本総理大臣、ネパールとルワンダの大統領らを含む首脳に届けました。さらに、広島と長崎の市長をはじめ3000の都市にキャンペーンの支持をしていただきました。200人の各国の議員に署名をいただきました。アズハルのシーク、シヌーダ3世、イスラエルのローゼン・ラビ、天台宗の半田孝淳座主猊下などの宗教指導者にキャンペーンを支持していただき、署名をいただきました。

200ほどの各国、また国際組織のパートナーとコラボレーションを図ることができました。ここには国連ミレニアム・キャンペーン、国連軍縮局、ユネスコ、Alliance of Civilizations、や国連平和大学などの国連関係機関も含まれます。また地雷禁止国際キャンペーン、イアンサ、平和市長会議、国際平和局、アリアス財団、核軍縮・不拡散議員連盟などの、軍縮関係組織や連盟などからも支持していただきました。

また、このキャンペーンは各国政府の間で軍事費とMDGsに焦点を当てた国連総会決議案を深刻に検討する機会を与えました。残念なことにまだ、現在の国連総会ではこの決議案を批准する勇気のある国はありません。

しかし、それでも「ARMS DOWN!」に署名してくれた2千万人の声は世界中からこのステージに響き、支えあう安全保障とはみんなで作り上げていくということを実証しています。

皆様、9月の後半に国連事務総長がMDGsサミットを開催した際に、こう言われました。「今から2015年までに、約束を守らなければなりません。守らなかった場合の結果は、何百万人もの死、病気、絶望、必要のない苦しみや失われた機会といった、深刻なものです。」

皆様、こんにち、世界各国の政府で1.6兆ドルが軍事予算に使われています。その反面、何十億もの人が極度の貧困状態で暮らしています。約束を守る方法として、加盟国が予算の優先順位を変え、軍事費の10%をMDGs支援に充てるということが出来ます。世界にはMDGsを達成するのに十分なリソースがあります。欠けているのは政治的意思だけです。

アフリカの言語の多くで、「あなたがいるから私がある」と言います。平和への道や、支えあう安全保障を実現するまでの道は険しいですが、青年宗教者は、リーダーとしてどんなに大変なチャレンジにでも立ち向かっていかなければいけないことを理解しています。このやる気は各宗教の信念からくるものであり、このキャンペーンはMDGsへのコミットメントを活性化させる新しい起動力を与えてくれています。

我々は、世界に期待する変化を可能にしたいのです。これまでキャンペーンに貢献してくださり、世界中から集まってくれた方たちに感謝します。この先の道のりは優しいものではありませんが、始めた仕事はどれだけ大変でも終わらせるべきです。しかしこのキャンペーンは私たちだけのものではなく、地雷で手足を失った子供たち、資金不足で教育を受けられなかった女性たちや、悲劇的な資源の不均衡に背中を向けずに戦ってきた人たちのためでもあるのです。我々が兵器の必要なくして、自信をもって平和に暮らせるようになるように、世界のリーダーたちが人々の望みを聞くまで、私たちは活動を続けます。平和への道は確かに始まり、続くべきです。ARMS DOWN!

(了)